

## 第8回 算数科で中学校から移行したもの

中学校1年から小学校6年に移行した内容があります。

統計資料を扱うときに用いる用語です。

これまで、データをグラフに表す際、6年ではデータのちらばりの様子をわかりやすくするために「柱状グラフ」を学習しています。

今年度から、データやグラフの見方について新しい用語が加わります。

- ・「平均値」(集団のデータの平均の値。「平均」は5年で学習します)
- ・「最頻値」(「さいひんち」。データの中で最も多く出てくる値)
- ・「中央値」(データの値を大きさの順に並べた時の中央の値)
- ・「代表値」(データの特徴を調べたり伝えたりするときに代表させる値。  
上の平均値、最頻値、中央値などを指します)
- ・「階級」(データを整理するために用いる区間)

これらの用語を知り、その意味を学習することにより、データやグラフの新しい見方ができ、多様な調べ方や伝え方ができるようになります。

度数分布表と柱状グラフ

